

うえすとさいど

美容はツール 人間力をのばす 就労移行支援事業所「カラーズ」の取組

障害者アートが脚光をあび、障害のある方の中には隠れた才能があることが知られるようになりました。就労移行支援事業所カラーズは、美容という分野で、他の事業所とは少し違う歩みではありますが、ひきこもりや発達障害の方々の支援と若者たちの夢を応援する取り組みを続けてきました。今回はカラーズにお邪魔し、ここまでの歩みと今の取組についてお話をうかがいました。

■ハローワーク「職業訓練」からの出発

カラーズは地下鉄新深江駅からほど近い、ビルの2階に事業所があります。管理者の矢野真紀子さんによると、2011年に厚生労働省のハローワークから委託を受け、職業訓練（美容、着付け、ネイルなど）を実施する訓練校「BTR ビューティーアカデミー」としてスタートしました。この訓練は半年で終了するのですが、実際に来た生徒の一部はとて半年で職業につけるような状況にはありませんでした。社会人としての基本的なスキルが身についておらず、遅刻する、約束が守れない、衣食住が確保できていない、浪費する、コミュニケーションがうまくできない—という人がかなりの数に上ったのです。結局、矢野さんたちが、訓練終了後も献身的に対応せざるを得ない状況になり、課題解決のために具体的な生活支援をすることになりました。家のな

い人には家を確保、スケジュール管理ができない人には手帳を一緒につけるなどの取り組み、借金整理のために弁護士を依頼するなど美容とは全く関係のないことを、本人の窮状を見かねて進めていったそうです。

■ネイルアート全国3位に～ももさん（石井桃子）のケース

私が BTR ビューティーアカデミーに來たのは 22 歳の時でした。地方から衝動的に大阪に出てきて、親族の家に居候していました。しかし、先の計画ができない、約束が守れない、金銭管理ができないなどの特性のため、半年の訓練では卒業して就労することができません。親族の家も出なければならなくなり、住む部屋も見つけてもらいました。

カラーズのアシスタント（講師を目指す前の補助的役割）として就労しましたが、講師の仕事にあらがれがあるのに、横で見ているだけで仕事が全く身に付きません。授業の進行ができないことが数年続きました。26 歳になり、矢野さんの勧めで病院を受診して初めて「発達障害」の診断を受けました。

その後は、できないことをうまく対処することで、仕事も少しずつできるようになりました。28 歳の時には、全日本美容技術選手権大会ネイルアート競技の

部で全国 3 位の成績をおさめることができました。今では、講師としてカラーズで勤務しています。

（2 面に続く）



左から講師のゆかりさん、管理者の矢野真紀子さん、講師のももさん④／さまざまな賞をとった作品⑤



就労支援は職業技術だけではない～生活全般の支援に

■生きづらさの原因が見え始める

矢野さんによると、生徒とかかわっているうちに、彼女らの生きづらさの原因として「発達障害」や「知的障害」「精神障害」「家庭に恵まれず社会のルールが身につかない環境」などが浮き彫りになってきました。「じゃあ、どうすればいいのか」—その方法を考えるため、障害特性のことを調べていくうちに、様々な訓練プログラムが生まれました。

そしてひとりひとりの訓練生と向き合いながら、プログラムを実践していく中で「大切なことは、自分の特性を理解すること」「生きづらさを自分で理解して対応していくこと」などが見えてきました。そんな時に「その内容はすでに障害者支援になっている。障害サービスの就労移行支援なら2年間（最大延長3年）の訓練が可能」と聞き、2019年から定員20人の就労移行支援事業所として大阪市の指定を受けることができました。この5年間で、50人ほどが就労移行支援を終えて卒業し、36人が半年以上職場に定着しています。

■ご当地アイドルの活動も～ゆかりさん（久保由香梨）のケース

高校時代からまわりに迷惑をかけていたのかもしれませんが、私は全く気付かずに大学に進学。でも、授業に出ないで友だちと遊びまわって結局中退に。金銭管理が全くできず、その頃には奨学金をはじめ、ネットショッピングなどで借金がふくらみとても返せない金額になっていました。なのに全然危機感のないままでした。

20歳のときに人に勧められてBTRビューティーアカデミーに入学しました。カラーズの個別面接で借金の話をしたら「大変じゃないの」と大騒ぎとなりましたが、私は「何も困ってないのにどうして？」てな調子。その様子を見たスタッフから受診をすすめられ、自分に発達障害があることがわかり、「訓練校」でなく「就労移行支援事業所」を利用することになりました。

弁護士を紹介していただき借金の清算をしましたが、自立への意識が高まったわけではありません。キャリアウーマンになりたいと思っていましたが、その道筋が見えるわけでもありません。美容に対するスキルはあり資格は順調に取れましたが、支援が終了する時期を迎えてものんびり構えたまま。同時期にカラーズに入った利用者が次々に就職していき、支援の期限が終了する3ヶ月前ごろから、初めて「私どうしたらいいの？」と考えるようになりました。その後、カラーズのアシスタントとして就職し、25歳で講師になることができました。

■ネイル技術だけでなく、衣装デザイン、作詞作曲を目指す人も

カラーズでは訓練目的でネイルサロンを運営しています。お客様にネイルケアを施すことも大切ですが、

店舗維持のためのメンテナンス、売上管理、お客様とのコミュニケーション、SNSでの広報などサロンを運営するためのスキルはいくつもあります。障害のある方が苦手な臨機応変に対応することや、ていねいなコミュニケーションを求められることもたくさん出てきます。ここではそれをトータルに学ぶ環境が準備されています。卒業生の中には、障害がありながら美容室の店長をしている方もいるそうです。

また、2023年からゆかりさんを中心にカラーズ利用者とともにご当地アイドル「COLORDOL（カドル）」が活動を始めました。SNSを通じて発信し、実際に各地のイベントに出演しています。アイドルだけでなく、パソコンプログラムを用いて作詞作曲する、衣装を製作する、イベントのプロデュースなど、その活動から派生した業務を目指す人もいて、華やかな舞台を支える裏方にも理解が深まるようになりました。

■利用者出身の講師が自分の経験をもとに支援

カラーズのもうひとつの特徴は、スタッフ13人のうち10人が訓練校や就労移行を受けた卒業生です。6人は精神保健福祉手帳所持者で、元は発達特性や家庭環境などから社会人として自立しづらかった経験をもつ人たちです。自分の経験から、利用者がうまく課題に向き合うことや生きづらさに寄り添うという姿勢を、自らの経験として伝えることに取り組んでいます。様々な失敗経験ばかりを積んできた利用者の多くは、入所後しばらくは傷ついた気持ちを自分が受け入れられず、自分に向き合うことができません。しかし、スタッフがつらい体験から立ち上がった経験はなによりも強い力となり、多くの利用者は自分の弱さを理解し、対処することができるようになるそうです。

カラーズでは「コミュニケーション」が必須授業となっています。最初は「そんなの学ばないよ」と、やる気のない利用者も多いそうですが、そのうちに「自分にはできていない」と気づき、熱心に取り組み始める人がほとんどだとのことでした。

矢野さんは「美容師やメイク術で認められると、お

客の側が『この先生にメイクしてほしい』というケースも多く、そうすると少々『接客』が苦手でも活躍できる職業。発達障害の方に向いているともいえます。その人の力を生かし、障害があっても社会人として活躍できます。そん



COLORS直営のネイルサロン

な夢を持ち、それを実現できるように応援してあげたい」と、これまでの実績に確かな手ごたえを感じているようでした。

（前川 敦）

そだちの家のなつやすみ

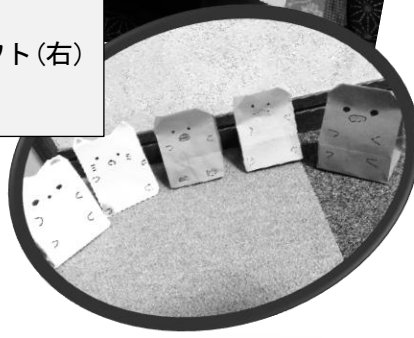
楽しかった思い出がいっぱい



たべるたいせつミュージアム（和泉市）に行ったね



この夏から午後プログラムを導入しました
スライム（右上）クラフト（右）
絵本読み聞かせ（下）



夏だ！プールだ！
でも暑かった…



体育館にも行ったよ

1～2面記事ご当地アイドル
「COLORDOL」へのアクセスは、右のQRコードから



ふせ支援ネットワーク賛助会員

東大阪店舗管理センター
カットハウスAmi
昭和印刷出版株式会社

Craftbeer Tavern
一般社団法人アミュー
アトリエからふる

昭和印刷

イベント案内

★第11回東大阪バリアフリーマラソン

10月11日(土)13:00～16:00
花園中央公園多目的球技広場（右のQRコード）



★アミューフェス ハロウィン

10月25日(土)12:00～15:00 大蓮東公園（雨天決行）
今年も仮装コンテストを行います。近隣の駐車場が少ないので公共交通機関をご利用ください。

連絡先：一般社団法人アミュー 06-7503-6897

★地域とともに歩む 万博展を通じて自社経営と地域の未来（パネルディスカッション）

10月28日(火)18:30～ クレアホールふせ
大阪府中小企業家同友会 東成・生野支部主催
参加無料 申込み FAX06-6941-8352

※パネラーでカラーズの矢野真紀子さんが登壇します

★SNSを味方にする、対人援助職のための新しいコミュニケーションへ～実践場面におけるSNSとそのリスク

11月15日(土)13:30～16:30 鶴見区民センター内日建ホール
講師：浮世満理子氏

主催：鶴見区障害者基幹相談支援センター 06-6961-4631

★「こども食堂」交流会

11月29日(土)13:30～15:30
若江岩田駅前市民プラザ・多目的ホール
主催：東大阪通いの場連絡会
（右のQRコード）



夜の公園散策 「勝手に探検部」

奈良の里山公園に出没!!

ふせ支援ネットワーク
の人もそうでない人も

障害のある人も
ない人も
有志で集まれ!



奈良県橿原市昆虫館近くの体育館駐車場。陽が沈み始めたころ、有志で呼び掛けた「勝手に探検部」の参加者が続々と終結。まだ暑さの残る夕暮れ時でしたが、大阪とは違って徐々に気温が下がってくるのを肌で感じます。里山の風が心地よく吹き抜けます。車から出てきた子ども達も元気いっぱい。生き物好きの少年はさっそく網を取り出し、駐車場横の溝へ。そこには小さなカエルがぴょこぴょこは跳ねていました。セミをつかまえに走る子ども達も。奈良は自然がいっぱいです。

薄暗くなってきたころ全員集合し、本丸の万葉の森近くの駐車場に移動しました。そこから探検する下の公園の広場までは公園の明かりはありますが、懐中電灯がなければ足元はほぼ真っ暗です。子ども達はヘッドランプや懐中電灯を持って、わくわくどきどき、さあ出動です。

虫取り名人の大きなお兄さんが、樹液の匂いを頼りにクワガタやカブトムシを発見します。いつの間にか子ども達の輪ができて、「これ何？」と質問が飛んでいました。



大きなカマキリが植物の葉にぶら下がり休息中だったり、びっくりした蛇が枯葉の下に逃げ込んだり、トカゲが樹木の幹を駆け上がっていったり…。里山の生き物たちの驚きをよそに、夜の里山は子どもと大人のにぎやかな声と楽しそうな雰囲気に包まれました。



1 時間ほどの探検のあと、みんなでつかまえた昆虫たちを見せ合ったり、参加者同士で交渉して自分の欲しい昆虫を交換し合ったり。そしてみなさん戦果を抱えて駐車場に戻り、ハイチーズ。「勝手に表彰状」を掲げて誇らしげな子ども達の



笑顔、笑顔…があっちにもこっちにも。自然の中での小さな冒険が子ども達の大きな冒険につながりますように。昔、子どもだった大人たちのわくわくが次世代につながりますように。(木村めぐみ)



【追記】虫取り名人の大きなお兄さんからのアドバイス



8 月のカブトムシやクワガタのメスは卵を持っていることがあります。産卵マットで育ててあげると、卵を産んでくれるかもしれません。カブトムシやクワガタが卵を産んだら育ててみてくださいね。